

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)半田市栄町プロジェクト 新築工	階数	地上11F
建設地	愛知県半田市栄町三丁目3番、6番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	204 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年11月14日
敷地面積	1,880 m ²	作成者	笠井
建築面積	468 m ²	確認日	2016年11月14日
延床面積	4,045 m ²	確認者	笠井



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	72%
③上記+②以外の	72%
④上記+	72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.2
Q2 サービス性能: 3.7
Q3 室外環境(敷地内): 2.2
LR1 エネルギー: 3.4
LR2 資源・マテリアル: 2.7
LR3 敷地外環境: 2.9

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	3.1
温熱環境	2.9
光・視環境	2.9
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性	4.4
耐用性	3.1
対応性	3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	3.4
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	4.1
地域環境	2.5
周辺環境	2.3

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">7.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音		3.0	0.15	3.1	1.00	3.1		3.0	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	0.50	3.2	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能	コンクリート壁厚180確保	3.0	-	4.0	0.30	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	3.0	0.20		
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御		2.6	0.35	3.0	1.00	2.9			
1 室温		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	0.50		
2 外皮性能		3.0	0.63	3.0	0.63	3.0	0.63		
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	0.38	3.0	0.38		
2.2 湿度制御		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
2.3 空調方式		1.0	0.20	3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用		2.4	0.25	3.0	1.00	2.9			
1 昼光率		3.0	0.30	3.0	0.30	3.0	0.30		
2 方位別開口		3.0	0.60	3.0	0.50	3.0	0.50		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策		3.0	0.25	4.0	1.00	3.9			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に使用	3.0	0.60	5.0	0.63	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		3.0	1.00	5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.40	2.3	0.38	2.3	0.38		
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	3.0	0.33		
2 自然換気性能		3.0	-	1.0	0.33	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	3.0	0.33		
4.3 運用管理		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
2 喫煙の制御		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	4.6	1.00	4.4			
1 広さ・収納性		3.0	0.40	5.0	0.60	5.0	0.60		
2 高度情報通信設備対応	Gbitガスのブロードバンドが利用可能なLANケーブルを設置	3.0	-	5.0	1.00	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	3.0	1.00	3.0	1.00		
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	4.0	0.40	4.0	0.40		
1 広さ感・景観	居室天井高2.5m	3.0	-	4.0	0.50	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-	3.0	-		
3 内装計画	パースによる内装計画の検証	4.0	1.00	4.0	0.50	4.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	3.0	0.30	3.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震		3.1	0.31	3.1	0.31	3.1	0.31		
1 耐震性		3.0	0.48	3.0	0.48	3.0	0.48		
2 免震・制振性能		3.0	0.80	3.0	0.80	3.0	0.80		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	3.4	0.33	3.4	0.33		
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3を確保	5.0	0.23	5.0	0.23	5.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	3.0	0.23	3.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	3.0	0.09	3.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	3.0	0.08	3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	3.0	0.15	3.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	3.0	0.23	3.0	0.23		
2.4 信頼性		3.2	0.19	3.2	0.19	3.2	0.19		
1 空調・換気設備	節水型器具の採用	3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備		4.0	0.20	4.0	0.20	4.0	0.20		
3 電気設備		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	0.20		
5 通信・情報設備		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	0.20		
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり		3.0	0.29	3.3	1.00	3.2			
1 階高のゆとり	階高2.91m以上を確保	3.0	-	3.6	0.50	3.6	0.50		
2 空間の形状・自由さ		3.0	-	4.0	0.60	4.0	0.60		
3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.40	3.0	0.40		
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	3.0	0.50	3.0	0.50		
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	3.0	0.17	3.0	0.17		
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	3.0	0.17	3.0	0.17		
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	3.0	0.11	3.0	0.11		
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	3.0	0.11	3.0	0.11		
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	3.0	0.22	3.0	0.22		
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22	3.0	0.22	3.0	0.22		

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-
1	生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30	-	-	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40	-	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.0	0.50	-	-	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=-	3.0	0.40	-	-	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用			2.0	0.20	-	-	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化			4.5	0.40	-	-	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価(3c)		高効率設備の採用	4.5	1.00	-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	-	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	-	-	-	3.4
1.1	節水		4.0	0.40	-	-	-	-	-	
	節水型器具の採用		3.0	0.60	-	-	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	1.00	-	-	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63	-	-	-	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自	3.0	0.24	-	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:72%	4.1	0.33	-	-	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪場を住戸数比200%確保	4.0	0.25	-	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.3	0.33	-	-	-	-	2.3
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-	
1	騒音	独自		3.0	0.33	-	-	-	-	
2	振動	独自		3.0	0.33	-	-	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			2.3	0.20	-	-	-	-	
3.3	光害の抑制			2.0	0.70	-	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のつち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)半田市栄町プロジェクト 新築工事

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:7.74%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)半田市栄町プロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	省エネ、維持管理や防犯等に配慮し良質な住空間の形成を目指した
Q1 室内環境	快適な住空間となるよう配慮
Q2 サービス性能	高効率設備機器の採用
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し、エントランス廻りを優先的に緑化
LR1 エネルギー	省エネを考慮した設備機器を設置し、一次エネルギー消費量を抑えるよう配慮
LR2 資源・マテリアル	住戸便器に省水型機器を採用
LR3 敷地外環境	駐輪場を住戸数比200%確保
その他	